

在セネガル日本国大使館月報

2019年8月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 17日、セネガルの政治家・元外交官で元FAO事務局長のジャック・ディウフ氏が、81歳で、療養先のパリにて逝去した。

(日本関連)

- 29日、TICAD7に出席中のサル大統領は日本の安倍総理と会談した。1300億FCFAに上るマメル海水淡水化事業といったセネガルと日本の経済パートナーシップ関係等が議論された。

(外政)

- ティボール・ピーター・ナギー米国国務長官補(アフリカ担当)が7日から9日にかけてダカールを訪問し、サル大統領を表敬訪問した。

(経済)

- 5日、経済・計画・協力省は、セネガル新興計画(PSE)第2フェーズ(2019-2023年)において、SDGsで掲げられた目標を97%達成する見込みである旨発表した。

ガーボベルデ

- コレイア・エ・シルヴァ首相は、TICAD7において、島嶼国にさらに配慮が行われるべきである旨の主張を行った。また、同首相は、安倍総理と首脳会談を行った。

ガンビア

- 27日、ジャワラ初代大統領が95歳で逝去した。
- 31日、TICAD7出席のため、訪日中のトゥーレイ副大統領は、安倍総理の表敬を受けた。

ギニアビサウ

- TICAD7は、28日から30日に横浜で開催され、ギニアビサウからは、ゴメス首相が出席した。

セネガル

(内政)

内政一般

- 10日、セネガル民主党は、新幹部人事を発表し、ナンバー2格のサール筆頭幹事長代理が、党の方針に反し「政治対話」に参加したとして解任された。他方、11名の幹事長代理のうち、ナンバー2格の主要ポストである組織・戦略等を担当する幹事長代理にウッド元大臣が就任した。(10-13日付けLe Quotidien紙等)
- 12日、サル大統領は、犠牲祭に際して演説し、降雨により農業収穫することを祈念すると述べるとともに、ゴミ・ゼロ運動の推進を訴えた。また426名の収監者に恩赦を与えた。(13日付けLe Soleil紙)

- セネガル民主党の内部では、与党時代からの重鎮少なくとも5名が、人事に反発し、新たなポストへの就任を拒否した。他方、同党のアサン・バ運動・広報部長は、重鎮を批判しつつ、サル政権に対抗するため、党内人事を受け入れるべきである旨述べた。(14日, RFI)
- 17日, セネガルの政治家・元外交官で元FAO事務局長のジャック・ディウフ氏が、81歳で、療養先のパリにて逝去した(日本との関係では平成24年旭日大綬章を受章)。(19日, Le Soleil等)
- 23日, セネガル労働党(与党)の創設者の一人で、セネガルの民主主義の発展に大きく貢献したアマタ・ダンソコ元大臣が逝去した。(24日, 各紙)
- 23日, セネガル民主党(野党)の非主流派は、400名を越す規模の集会及び記者会見を開き、カリム・ウッド元大臣を中心とする新執行部を批判した(24日, 各紙)

治安関連・社会動静関連

- 特になし。

(外政)

二国間関連

- 1日, サル大統領は、モハメド・ガズアニ・モーリタニア新大統領の就任式に出席するため同国を訪問した(1日 Le Soleil)
- 2日, 200名の米海兵隊がワカム空軍基地にて自然災害を想定して緊急支援のための訓練を実施し、訓練用キャンプ地を報道陣に公開した。ムシギ駐セネガル米国大使は、「本件訓練は、セネガルと米国の協力関係を強化する機会となる。2週間にわたり、米海兵隊は災害救助及び人道支援に係る訓練を行う。地域の安全保障上の脅威に直面しているなか、両国軍の相互運用性を高める必要がある。」旨述べた(3・4日 Le Soleil)
- ティボール・ピーター・ナギー米国国務長官補(アフリカ担当)が7日から9日にかけてダカールを訪問し、サル大統領を表敬訪問した。また、記者会見において、米国の対アフリカ政策は投資を促進することに軸においており、そのための環境として治安の改善が必要である旨述べた(5日 Le Soleil)
- 9日, セネガルを訪問中のナギー米国国務次官補(アフリカ担当)は、記者会見で、セネガルの政治的安定を称賛した。また、セネガルの経済成長には多国籍企業よりも中小企業の進出がより重要であるとの見方を示した。(10日付け Le Soleil 紙)

国際情勢・国連機関支援等

- 20日, 外務・在外セネガル人省は、18日付けでコミュニケを発表し、サウジアラビアの油田地帯で起こったドローンによるテロ攻撃を非難した。(20日, Le Soleil)
- サル大統領は、24日から26日に仏ビアリッツで開催されるG7サミットに出席する。同サミットでは、アフリカ諸国の元首も出席した会合が開催され、アフリカでの女性起業家支援、デジタル化、サヘル情勢及び汚職との闘いについて議論される予定。(22日, Le Soleil)

日本関連

- サル大統領は28日から30日に横浜で開催されるTICAD7に出席する。同会合では、経

済構造転換と経済多様化、強靱な社会と人間の安全保障及び平和と安定の3つが主要テーマとなる予定。首脳会談も行い9月2日に帰国予定。(22日, Le Soleil)

- JICAは2020年に7回目となるABEイニシアティブ・プログラムを実施する旨発表した。この研修プログラムは、アフリカの若者の能力強化と日アフリカ経済関係の強化にある。(24日, le Soleil)
- 26日, 国民教育大臣及び新井大使が出席し, 初等算数能力強化プロジェクトによる経験を共有するワークショップが開催された。同プロジェクトは, カオラック及びカフリンに続き, 他の都市でも実施される予定。(27日, Le Soleil)
- TICAD7は, 28日から30日に横浜で開催され, 日本とアフリカの関係の促進に向けた機会となる。セネガルからはサル大統領が出席する。(27日, Le Soleil)
- TICAD7へのセネガルの参加は, 多くの分野に及ぶ長い伝統的な日本との協力の伝統に刻み込まれることになる。(28日, Le Quotidien)
- 27日, 水産資源共同管理プロジェクト(COPAO)開始式が行われ, ンジャイ漁業大臣, 新井大使等が出席。3億3000万FCFA規模のプロジェクトが西アフリカ8か国で行われる。(28日, Le Soleil)
- 28日, 2019年度1次青年海外協力隊員11名の壮行会がダカール市内で開催された。国内9都市に派遣され経済社会開発分野の業務に従事する。(29日, Le Soleil)
- 29日, TICAD7に出席中のサル大統領は日本の安倍総理と会談した。1300億FCFAに上るマメル海水淡水化事業といったセネガルと日本の経済パートナーシップ関係等が議論された。(30日, Le Soleil)
- 30日, TICAD7において, サル大統領は, テーマ別会合の結論を総括する全体会で議長を務めた他, アフリカでの紛争やテロの解決方法について考えを述べた。(8月31日-9月1日 le Soleil等)
- 30日, 横浜宣言が採択されTICAD7は閉幕した。同宣言は, 1993年のTICAD第1回会合からの進展を評価し, アフリカ諸国に持続的開発目標の達成及び中小企業を含めた民間投資にとっての投資環境の改善に向けた取組を促した。(8月31日-9月1日 le Soleil等)
- TICAD7閉幕後の記者会見にて, 安倍総理は, 中国のアフリカ投資について, 中国はアフリカの発展に貢献しているが, アフリカに支援をする際には過剰債務を発生させないよう考慮する必要がある旨述べた。(8月31日-9月1日 le Soleil等)
- 31日, サル大統領は, 日本経済新聞によるインタビューに応じ, 先進国が協力するアフリカの開発について「適切な額の債務で開発を進めるべきだ」と述べた。(2日 日本経済新聞)
- TICADの際, 日本は, 世銀との共同プロジェクトを発表し, 人材の育成により, アフリカにおけるバランスのとれた経済成長を目指す。(9月5日 le Soleil)

(経済)

経済一般

- 5日, 経済・計画・協力省は, セネガル新興計画(PSE)第2フェーズ(2019-2023年)において, SDGsで掲げられた目標を97%達成する見込みである旨発表した。同数値は, PSE第1フェーズにおいて実現された77%の達成率と比較して20ポイントの増加となる(6日 Le Soleil)
- 5日, ホットウ経済大臣は, 経済社会環境評議会(CESE)の会合において, 民間セクターの再活性化

のための戦略がもうすぐ完成する旨述べた。アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)の発効を見据えた上でも民間セクターの強化が重要である旨述べた。(6日 Le Soleil)

- 6日, CESEの会合において, セネガルにおける雇用調査の結果が紹介された。同調査によると, 全体の97%がインフォーマルな分野で働いており, 学歴のある者のうち15, 7%が失業をしている。職を持つ者のうち, 専業主婦を含む家事関連業務従業者が41%, 自営業者が35%, 被雇用者が28%である。保険加入者は正規雇用者の2割に過ぎない。(7日 Walf Quotidien)
- 9日, 国家統計人口局が発表した統計によれば, セネガルは, 第三次産業が2017年の経済成長の45. 8%について寄与しており, 第二次産業は22. 6%, 第三次産業が16%を占めている旨説明した。(13日, Le Soleil 紙)
- 雨季にもかかわらず, 降水量が少なく, ダカールへの野菜と果物の供給地となっているニヤイ地域では, 今期, 一度しか降水がない。今後も数日間は降水の見込みがなく, 水の供給源となっている地下水も細りつつある。(14日, RFI)
- G7サミットに参加中のサル大統領は, RFIのインタビューに応じ, アフリカにおいては, 多国籍企業による租税回避の問題に対処する必要がある, これによる経済的不平等がアフリカから欧州への移民の問題の根本的な原因になっていることを認識すべきである旨述べた。(24日, RFI)

インフラ関連

- 政府の発表によれば, 24日から発電用の燃料価格が引き上げられる。一般消費者向けの石油製品の価格は据え置かれる。他方で, 電気料金の据え置きのための財政的補助は予算上継続が困難となっており, 今後, 電気料金が引き上げられる可能性がある。(26日, Le Quotidien)

カーボベルデ

- 5日, 首都プライアの港で, 約2, 3トンのコカインが押収された。同コカインが発見された船は, ブラジルからカーボベルデを経由して中国に向かうことが予定されていた。(6日 Observateur, 各種ネットメディア)
- 18日, 司法警察は, 沖合の船舶の内部で, 2256キロのコカインを押収し, ブラジル国籍の5名を密輸に関与したとして逮捕した旨発表した。(19日, PANA)
- TICAD7は, 28日から30日に横浜で開催され, カーボベルデからは, コレイラ・エ・シルヴァ首相が出席する。(26日, Infopress)
- コレイラ・エ・シルヴァ首相は, TICAD7において, 島嶼国にさらに配慮が行われるべきである旨の主張を行った。また, 同首相は, 安倍総理と首脳会談を行った。(29日 TCV)

ガンビア

- 5日, ジャメ元大統領に暗殺を命令されていた疑いがあった3名の軍人の釈放が決まった。同決定は, 国内外で議論を呼んでいる。(6日 Le Soleil)
- 7日, 軍法会議は, 2名の兵士が政府転覆を図ったとして3年の禁固刑を課す決定を行った。(8日 Le Soleil)
- 10日に釈放された4名のジャメ前大統領の元側近兵士の釈放は, 裁判手続による処罰もなく行われ

たことから、同兵士に家族を殺害された犠牲者とその支援団体に批判を受けている。(12日, RFI 等)

- 22日, バロウ大統領は、内閣改造を行い、防衛大臣にオマール・ファイ駐米大使を、内務大臣にユンカバ・ソソ警視総監をあてる人事を発表した。(22日, The Point)
- TICAD7は、28日から30日に横浜で開催され、ガンビアからは、トゥーレイ副大統領が出席する。(25日, Freedom newspaper 及び The Point)
- 27日, ジャワラ初代大統領が95歳で逝去した。同大統領は、1970年から94年まで大統領を務め、ジャメ元大統領によるクーデタにより失脚した。(27日, Seneweb)
- 28日, 安倍総理は、シンポジウムで、笹川財団とJICAが協力して2030年までに、アフリカにおける米の生産量を倍増させる計画である旨述べた。(29日 Jollofnews)
- 31日, TICAD7出席のため、訪日中のトゥーレイ副大統領は、安倍総理の表敬を受けた。(3日 Foroyaa)
- 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)において、トゥーレイ副大統領は、TICADがアフリカの開発や地域統合等の課題に貢献する特別なプロセスであり続ける旨述べた(9月11日 The Point)

ギニアビサウ

- 23日, ペレイラ前首相は、11月24日の大統領選挙を前に、与党独立アフリカ党(PAIGC)の予備選挙に勝利した。同大統領は、次回大統領選挙での勝利を確信していると述べた。(24日, RFI)
- TICAD7は、28日から30日に横浜で開催され、ギニアビサウからは、ゴメス首相が出席した。同首相は、東ティモールとインドネシアも訪問する予定。(26日, Lusa)(了)
- ギニアビサウ人で、CNNの記者であるウマロ・ジャウ氏は、サル・セネガル大統領に公開書簡を発出し、セネガル側の河川に建設されたダムにより、下流のギニアビサウで水量の低下を招いている旨批判した。(27日, RFI)
- 29日, ヴァス大統領は、11月24日の大統領選挙に立候補を表明するために集会を開催した。(29日, RFI)

(注)本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)